2025 年 5 月 13 日
薬剤部　薬品情報管理室

乳児の服用方法に合わせて院内採用の代替薬を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、乳児の服用方法を確認し、院内で使用可能な代替薬を提案することで、安全な薬物療法に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▸原疾患の治療目的で入院中の生後 1 ヵ月の患児

【入院処方（一部抜粋）】
L-ケフレックス小児用顆粒　1 回 100mg（成分量）、1 日 2 回

F さん

※創部感染疑いに対して新規処方
※セファレキシン製剤の院内採用薬は上記のみであり、持続性製剤でないものも含めセファレキシン製剤は、事例の時点で**全て限定出荷または出荷停止**となっていた

看護師

生後 1 ヵ月の乳児に徐放性製剤である L-ケフレックス小児用顆粒が処方されている。恐らく服用できないため、確認が必要そうだ。
※L-ケフレックス小児用顆粒：溶出 pH の異なる 2 種類の顆粒が配合された持続性製剤

F さんに L-ケフレックス小児用顆粒が新しく処方されていますが、どのように服用させる予定でしょうか。

つぶして白湯に溶かし、哺乳瓶の乳首から飲ませる予定です。粒の状態では服用できないと思います。

薬剤師

分かりました。持続性製剤のため粉砕・溶解すると、有効性や安全性に影響が出る可能性があります。
他剤に変更可能か先生と相談しますね。

医師

F さんに開始予定の L-ケフレックス小児用顆粒ですが、持続性製剤であり、粉砕や溶解ができない薬剤です。
F さんに飲ませるのは難しそうですので、他剤に変更することは可能でしょうか。院内採用となっている第一世代セフェム系抗菌薬（ケフレックスと同系統の薬剤）としては、成分は異なりますが、ケフラールがあります。

ケフラールでも大丈夫です。それでは処方を変更しておきます。

その後、ケフラール（非持続性製剤）1 回 30mg（成分量）、1 日 3 回 に変更となり、投与が開始された。投与開始後、創部の悪化や副作用症状なく経過し、投与終了した。
乳児の服用方法を確認し、院内で使用可能な代替薬を提案することで、安全な薬物療法に貢献できた。

※参考文献：各添付文書、インタビューフォーム
CloseDi（https://closedi.jp/medical_supply）